議会広報広聴委員会

令和８年 11 月９日（月）
午前 10 時から
第　４　委　員　会　室

【出席者】大谷委員長、岡山副委員長、
西田一平委員、今田委員、遠藤委員、花田委員、戸津川委員、沖田委員、
笹田委員、岡本委員
【事務局】村山書記

議題

1　はまだ議会だよりminiについて……資料1

(1) 第49号掲載内容及び原稿担当

(2) その他

2　はまだ市民一日議会の反省点・課題について……資料2

(1) アンケート集計結果

(2) 発言内容に対する議会の対応案等

(3) その他

3　はまだ議会だよりの訂正について……資料3

(1) 訂正記事

(2) 再発防止

(3) その他

4　その他

資料１

はまだ議会だより mini_49（12 月 1 日発行）について

（カラー案（16）：冬をイメージ）

前回（10 月 1 日発行）の記事

・令和８年度「島根県市議会議長会議員研修会」に参加（議会広報広聴委員会）
・東日本大震災遺構・伝承館などを視察（総務委員会）
・議員のつぶやき（盆踊りを次代へつなぐ：岡本委員）
・議長日誌（少年の主張浜田市大会）

※掲載内容は 11 月 1 日発行の本紙とのバランスも勘案

掲載項目案　※2 項目選定後、担当者決定

総務　　：
文教厚生：意見交換会（10/19 執行部）
産業建設：行政視察（10/19～20 プロキシマー）
　　意見交換会（10/26 底曳網漁業連合会）
広報広聴：視察対応（10/27 兵庫県三木市、10/28 埼玉県加須市）
議会運営：
議会活性化：
その他：

議員のつぶやき

（月が綺麗ですね：遠藤、推しグルメ募集：西田、尊敬できる人はいますか？：今田、おせっかいのススメ：花田、スーパーカブばんざい：戸津川、夢は青い大空へ：大谷委員長、盆踊りを次代へつなぐ：岡本委員）

議長日誌（作成済み）

9 月 20 日　水産高校 第一次国際航海実習 出港式

※原稿提出締切日　　11 月 20 日（金）14：00

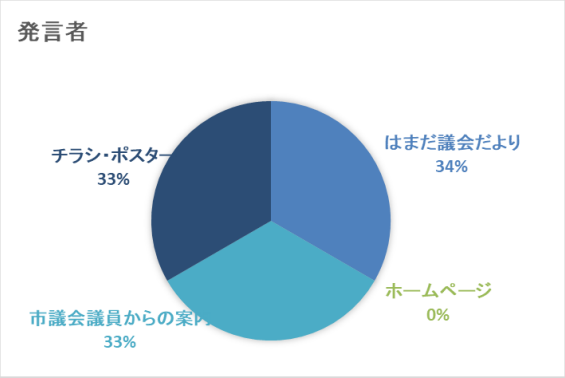
第６回はまだ市民一日議会　アンケート集計結果

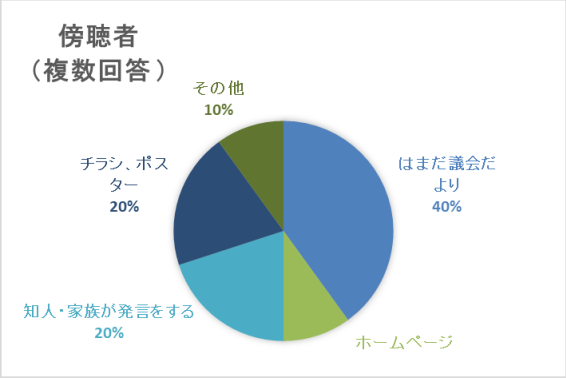
1　参加人数及び傍聴者アンケート回答者数（当日の傍聴者は８人）

発言者	３人		
年代	20代未満	－	－
	20代	－	－
	30代	－	－
	40代	１人	33.3%
	50代	－	－
	60代	－	－
	70代以上	２人	66.7%
	未回答	－	－

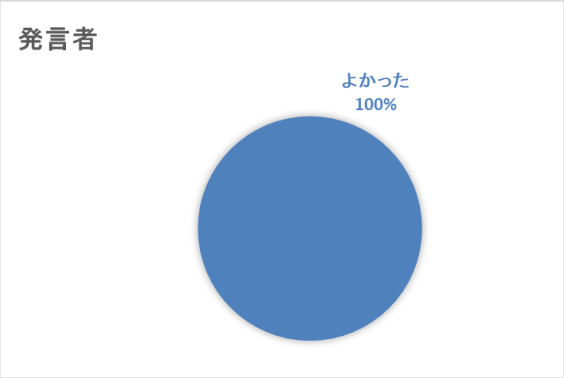
傍聴者	８人（アンケート回答数）		
年代	20代未満	－	－
	20代	－	－
	30代	２人	25.0%
	40代	１人	12.5%
	50代	１人	12.5%
	60代	－	－
	70代以上	３人	37.5%
	未回答	１人	12.5%

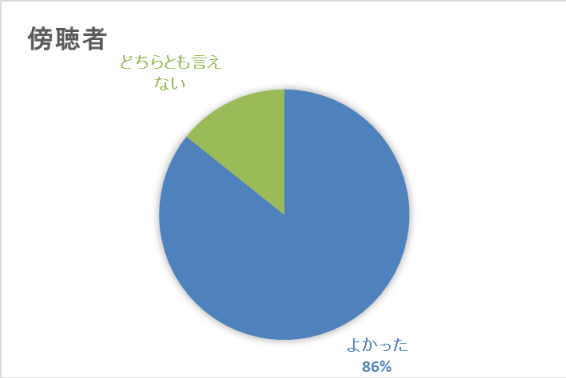
2　参加、見学のきっかけ（複数回答）



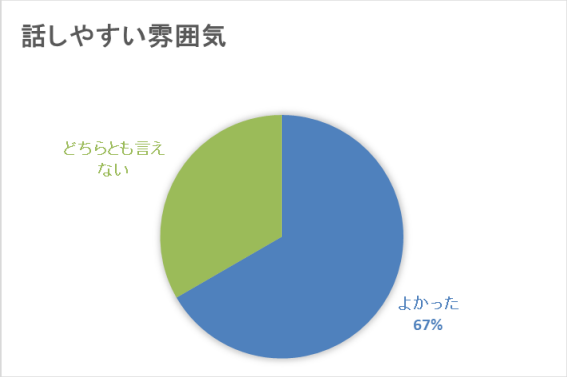


3　会の進行

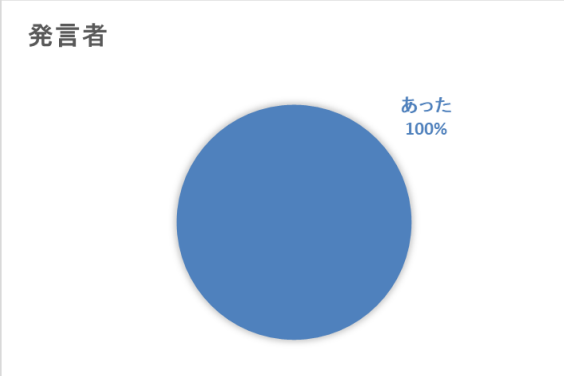


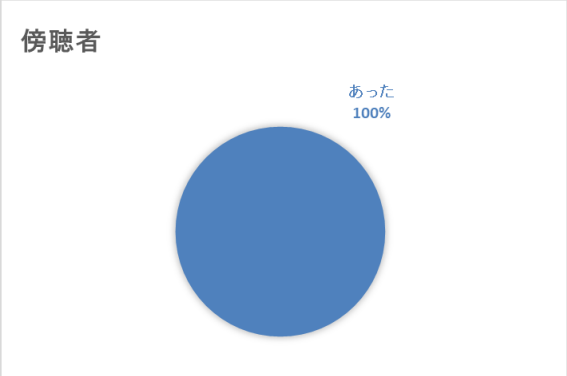


4　会の雰囲気

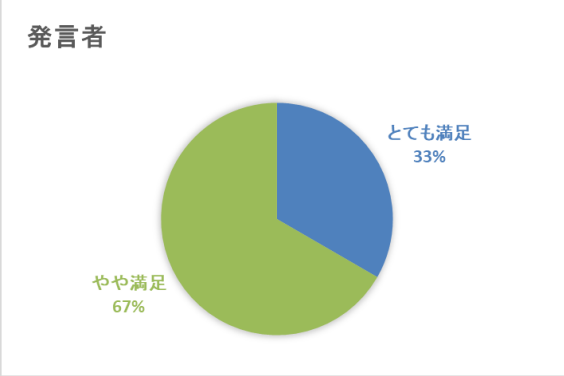


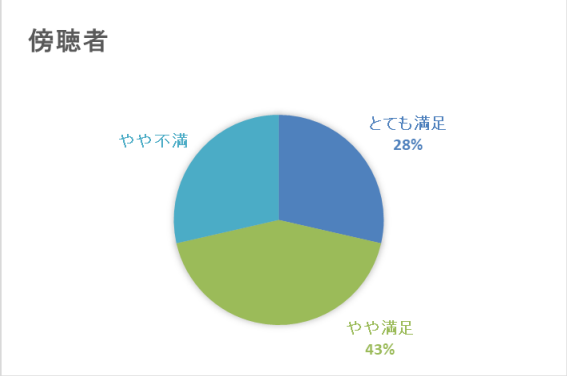
5　「気づき」や「発見」の有無



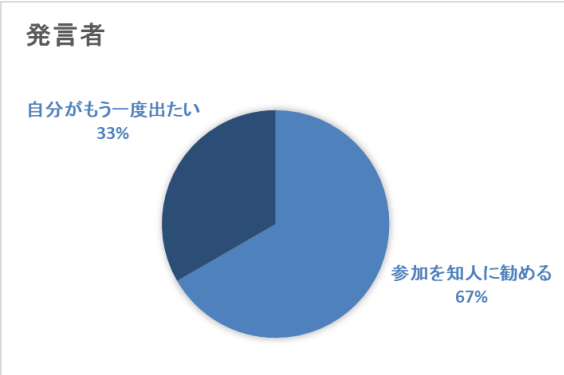


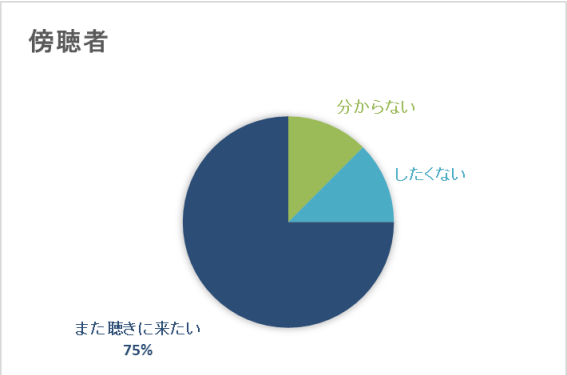
6　満足度





7　次回の参加等





第6回はまだ市民一日議会の振返り等について

1　発言者・傍聴者アンケートに寄せられた意見

⑴ 気づきや発見

【発言者】
・時間内にまとめれなかったのが反省点でした。

【傍聴者】
・アンダーパス冠水表示（有事の際に見えるような表示の仕方）、写真を共通言語にした共創、協働の仕組み
・浜田市内のアンダーパスの場所を知ることができ、冠水時の対応も併せて学ぶことができた。
・声をあげる人とその声を拾う人が集う場所があることの大切さ
・だいたい知っていた事でした。アンダーパスの6か所は確認できて良かった。
・私自身が知り得ない情報が聞けて良かったと思いました。本当に個人で動いておられる方がいらっしゃることに感動しました。
・市のことを考えている市民の方がおられることが分かりました。

⑵ ご意見・ご感想

【発言者】
・浜田市の歴史について、会津屋八右衛門のことや柿本人麻呂、浜田（鴨山）死説など、知らない人が増えている。市民のアイデンティティを確立するための歴史教育が必要。
・5分の発表時間では短すぎる。（15～20分）

【傍聴者】
・ポスターに過去の発言や実現したことが書いてあると興味がもてる。
・浜田市に対して、自分が持ち合わせていなかった視点、アイデアに触れられる機会となりました。ありがとうございました。
・今後も、市民にぜひこういう会があることを働きかけてほしい。
・協働実装については似ている活動は20年くらい前から、普通高も企業・店といっしょにやっている。ただ立業、実行が主であり浜田市の発展というところには少し離れている。求めることは、浜田を好きになれば、何が必要で、やるべきかわかってくると思う。
・議会で言わないと動いてもらえないのかなと感じました。色々な意見は、どこに（市役所）誰に（議員？）に訴えれば良いのでしょう。
・参考にさせていただきます。
・3名の発言者では少ない。もっと発言者枠を設けて活性化すべきです。

⑶ 議会への期待

【発言者】
・議員一人一人がテーマを持ち、それぞれ第一人者として活躍して下さい。

【傍聴者】
・今回学生がいなかったことが残念。学校にポスターがあるが関心が低い。
・SNSも活用した議会活動の発信
・傍聴席まで声が届きにくい。市長も参加してほしい。
・災害についてはアンダーパスだけでなくすべき事はあると思う。多くの市民の声を聞き進めてほしい。浜田が住みやすい町になるためには何をしたらよいか考えてほしい（例：「出雲の大学駅伝」のように人が来るような事を開催する）
・もっと多くの方に傍聴してほしいです。宣伝不足。
・人口減少に抗っていただければと思います。
・発言に対する答弁が少ない。また片寄っている。

○いただいた意見に対する議会としての対応案

番号	1	テーマ	会津屋八右衛門 200 年祭にむけて
氏名	徳原（とくはら）　繁一（しげかず）		
内容	あと 9 年後の 2035 年は会津屋八右衛門が殉難した竹島事件からちょうど 200 年目にあたります。 100 年目にあたる昭和 10 年、1935 年にはそれを記念して松原自治協会によって巨大な記念碑が建立されました。これは八右衛門の南洋貿易の壮挙をたたえるとともに、時代の背景にあった天保の大飢饉を八右衛門により救われたという人々の感謝の思いがありました。 会津屋八右衛門については郷土の英雄として漠然と知られてはいるものの、今日歴史の風化の中でその記憶は薄らぎつつあるといえます。9 年後の 2035 年には会津屋八右衛門 200 年祭を行うべく、それを目指し我ら浜田人のアイデンティティーとして会津屋八右衛門をもっと宣揚しまた盛り上げていかねばならないと考えます。		
西田一平	徳原氏は、2035 年が竹島事件殉難から 200 年、1935 年には松原自治協会が記念碑を建立した経緯を踏まえ、浜田人のアイデンティティとして会津屋八右衛門を宣揚し、200 年祭へ向け盛り上げるべきと提言されました。あわせて、『八右衛門とその時代』（2002 年・浜田市教育委員会）に対する反論資料も提出されています。 議会としては、市に歴史を調べ直しを求め、公式見解を求めるべきと考えます。祭り・イベントの実施に先立ち、史実の確認と検証が先決です。所管の文教厚生委員会で教育委員会と連携し、資料の検証体制について質問・調査要求を行います。		
今田			
岡山	本件については、文教厚生委員会で取り扱うことが適当と考えます。 まず、教育委員会において、会津屋八右衛門が現在、浜田市の偉人としてどのように位置づけられ、学校教育や郷土学習などでどのように取り扱われているのかを確認する必要があります。その現状を踏まえ、今後の顕彰や郷土への理解を深める取り組みについて検討してはどうかと考えます。		
遠藤	まずはしっかりと調査、研究を行い、正史の確認が必要で、満場一致で善行と確認ができることが必要であると考えてます		
花田			
戸津川	（対応）会津屋八右衛門については、文教厚生委員会で、対応協議されたい。 2035 年に迎える八右衛門没後 200 年祭については、どのような記念イベントを行うかも含めて、官民連携して検討する必要がある。 歴史上の事実の探求など、より詳細な調査については、教育委員会担当課で協議され、可能な限り真実を追求されたい。		
村木	文教厚生委員会で協議する。		
森谷			
大谷	歴史文化に関係するので文化振興を所管する文教厚生委員会での対応検討が望ましい。		

沖田	
足立	【確認事項】 教育委員会に対し、会津屋八右衛門に関する既存の史料・調査成果、記念碑の保存状況、学校教育や郷土学習での取扱いを確認する。提出された「八右衛門とその時代」への問題提起も伝え、史実と伝承を区別した追加調査の必要性について見解を求める。 【今後の対応】 2035 年の 200 年の節目を見据え、地域団体・研究者等との意見交換や企画の可能性を関係部局に確認し、その結果を所管委員会に報告してもらう。記念事業の開催や特定の歴史解釈を、議会が現段階で決定するものではない。
川上	・発言にあった、八右衛門に関する歴史的評価の見直しについては、教育委員会で検討されたい。 ・200 年祭については、部門を横断したかたちで要不要を検討すべき。 ・石見神楽へ八右衛門物語を取り込むことは、神楽議連で検討すれば良い。
柳楽	
串﨑	
小川	会津屋八衛門の評価は郷土歴史研究者でも分かれ、功績を称える「200 年祭」の取組についての合意形成は容易でない。市が調査の事業化を取組むことについても賛否がわかれると思われる。一つの意見として、文化振興課等への情報提供にとどめる。
笹田	郷土の歴史や文化財の保存・継承に関わる提案であることから、文教厚生委員会において所管事務調査として取り扱うことが適当。 会津屋八右衛門に関する歴史資料やこれまでの研究内容を確認し、郷土の歴史を次世代へ継承するための取組や、2035 年の没後 200 年に向けた顕彰のあり方について調査・研究してはどうか。
岡本	① 提言の取扱い（執行部への対応） 会津屋八右衛門 200 年祭の提言には大いに賛同する。2035 年を目標に、まずは地元松原町の皆さん（まちづくり委員会等）の思いを尊重し、事業の方向性を検討すべきである。議会としても、議員や職員が替わっても取組が継続され、郷土の偉業を後世に伝えられる仕組みづくりを執行部に求めたい。 ② 発言者への回答 提言を聴いて終わりにせず、議会での検討内容や執行部への対応、今後の方針を発言者に丁寧に回答する必要がある。実現の可否だけでなく、その理由や検討経過を伝え、継続的な対応につなげることが重要である。
芦谷	北前船寄港地、鎖国時代の浜田藩を象徴する今津屋八右衛門であり、郷土史家により浜田町史、浜田市誌、ふるさとの５０人など多くの歴史書に掲載されており、いまもこれを研究する郷土史家もあり、郷土史研究の各団体組織も活動しており、これらの協力と参画により浜田の歴史にさらに光を当てる必要があり、市民の理解と誇りを育むため歴史文化行政のテーマとして進める。
佐々木	教育委員会で現状を聞いたうえで、３委員会でそれぞれ協議したらどうか
西田清久	調査が先か 200 年祭が先か 盆踊りの口説きをやっている 政治的な側面を含めもっと研究を

	他の藩も同じような密貿易をやっていたが浜田藩だけ政治的な力があった
川神	

	2	テーマ	教育の重要性について
氏名	中川（なかがわ）　保（たもつ）		
内容	今年の夏も日本各地で豪雨災害が発生し、特にアンダーパスでの自動車浸水事故が各地で発生し、死亡事故も多発しています。 これは他人ごとではなく、 浜田市内にも何箇所かアンダーパスが有りますので、豪雨災害時に自動車浸水事故が発生する可能性が有ります。 そこで、この事故が起こらちないような方策(対策)を実施しないと同じ事が繰り返されます。 ニュース画像を見ると何も対策がされていないように思えます。 一部事業者が考案したアイデア商品も有りますが、私も考案しましたので発表します。		
西田一平	中川氏は、市内アンダーパス 6 箇所（田町 JR 下、周布 JR 下、下府駅近く JR 下、かさがら地下道、三隅古湊 JR 下、三隅湊浦 JR 下）を対象に、国が示す車体位置基準（床面 145～150mm で不具合、ドア下端 200～300mm で開閉困難、ドア半分 600～700mm で事実上脱出不可）と全国の先進事例（センサー連動表示板・空気式仮封鎖装置等）を整理・提示されています。 議会としては、命に関わる緊急課題として、すぐにでも取り組むべきと考えます。次回定例会に向け、産業建設関係の委員会で次の 3 点を市に求めてまいります。 市内 6 箇所の現状（視認性・表示方法・遮断機の有無） 中川氏の提案および先進事例の導入可否・概算費用 道路管理者（国・県・市）の関係整理と事業主体の明確化 なお、愛知県では 193 か所中 92 か所に自動表示板が設置済みという事実を踏まえ、浜田市が後れを取らないよう早期対応を求めます。		
今田			
岡山	本件については、産業建設委員会で取り扱うことが適当と考えます。 まず、市内各地にあるアンダーパスについて、箇所ごとの管理状況や浸水対策、豪雨時の通行規制などの現状を確認する必要があります。また、アンダーパスによっては市道以外の道路も含まれると考えられるため、道路管理者ごとの対応や関係機関との連携も整理したうえで、どのような対策が可能か検討する必要があると考えます。		
遠藤	直ぐに対策できる事ですので、早急に対応すべきだと考えます。		
花田			
戸津川	（対応）豪雨災害時のアンダーパス侵入防止対策について、昨今の豪雨災害を受けて、国土交通省を中心とした対策が、今後されようとしている。 所感としては、産業建設委員会で、対応協議されたい。 該当箇所である県道等については、島根県へ災害予防の対策を働きかけていただきたい。		
村木	水位目盛りについては、河川水位における橋桁と同様に目視できる環境整備として効果があると思います。ただ、アンダーパスに進入するまでに運転手に知らせる必要があるため、担当部署に検討を依頼する。		
森谷			

大谷	防災安全に関することなので防災安全課を所管する総務委員会での対応検討が望ましい。
沖田	
足立	【確認事項】 資料に示された市内 6 か所について、道路管?者、過去の冠水・通行止め履歴、排水能力・点検状況、現在の水位表示・警報・進入規制の有無を市担当部局を通じて確認する。 【今後の対応】 水位目盛りだけでなく、冠水する前に運転者へ知らせる警告灯・情報板・遮断設備、夜間の視認性や迂回案内などを、道路管理者・警察・消防と検討するよう求める。危険箇所の優先順位、費用、実施時期と対応困難な理由を整理し、所管委員会で進捗を確認する。
川上	・アンダーパスへ浸水した時の対応としての提案は再考する価値があり、都市建設部で検討されたい。 ・市民へも周知や教育を行なうべき。 ・ハザードマップについては作成だけでなく、危険箇所対応を為すべき。
柳楽	
串﨑	
小川	アンダーパスでの水没事故を受けた防災面でのタイムリーな提案である。防災安全課と都市建設との連携協議を働きかけ、市・県の管轄の違いや責任分担を踏まえたうえで効果的な対策の実施に向けて早急な検討を促す。
笹田	豪雨時の道路の安全確保や浸水対策に関わる提案であることから、産業建設委員会において所管事務調査として取り扱うことが適当。 対象となるアンダーパスの管理者や現在の安全対策、豪雨時の通行規制、危険情報の周知方法などを確認し、浸水事故を未然に防ぐための対策について調査・研究してはどうか。
岡本	① 提言の取扱い（執行部への対応） 中川保氏の提言は、9 枚の資料と模型を用いて具体的に説明され、大変わかりやすく、内容も素晴らしいものであった。市内 5 か所のアンダーパスについて、管理者である国・県・市に提言内容を伝え、豪雨時の浸水事故防止対策を検討するよう働きかけたい。特に、ハザードマップの大雨特別警報時の注意喚起や、車内に閉じ込められた際の脱出用ハンマーの備えについて、市民への周知を図ることが重要である。 ② 発言者への回答 提言内容を関係する管理者や執行部に伝え、その対応や検討状況を発言者に回答する。提案された対策の実現可能性についても検討し、今後の事故防止につながるよう、継続的な対応を求めたい。
芦谷	全国で発生した問題であり、一部先進例では遮断機など車両の進入防止装置、予防的通行規制などが行われているが、それはごく一部であり提案の内容も含め、行政として早急に対応すべき問題であり、市内７か所のアンダーパスについて状況を調査し、国交省、県とも協議し対処方針をつくる。
佐々木	産業建設委員会で協議したらどうか
西田清久	大変良いアイディアと思う 平常時から分かりやすく意識しやすいようにより目立つ表示を実行しておくべきと思い

	ます
川神	

番号	3	テーマ	市民が発信者になる浜田へ―地域広報の仕組みづくり
氏名	佐々木（ささき）　健治（けんじ）		
内容	浜田には、学校、企業、地域、人など多くの魅力がありますが、それぞれの情報が十分につながり、発信されていないと感じています。私は現在、浜田だから。の活動を通して、高校生・大学生・企業・地域の方々と一緒に、写真や言葉で浜田の魅力を発信しています。活動を続ける中で、人が動く→実績が見える→信用が生まれる→次の人が参加するという循環が生まれて来ました。この仕組みは、学校だけでなく観光、商店街、福祉、文化などにも横展開できると考えています。新しい事業を増やすだけでなく、今ある人や活動をつなぎ、市民自身が発信者になれる仕組みを、市全体で作れないでしょうか。		
西田一平	佐々木氏は、地域メディア「浜田だから。」と写真活動（写真 6.0）を通じ、浜商・県大の学生・企業・地域と情報発信の循環を実践されていることを示され、8 工程（①知る・考える→②撮る・つくる→③発信→④地域に戻す→⑤人が見る・動く→⑥つながる・共創→⑦社会に広がる→⑧次の活動へ）の協働実装を提案されました。観光・商工・福祉・文化への横展開の可能性も示されています。 議会としては、着眼点・手法とも有効であり、前向きに検討すべきと考えます。まずは市職員・議員・市民向けの勉強会を開催し、提案の意図を周知したうえで、広報・総務関係の所管と試行的な協働の可能性を調整してまいります。		
今田			
岡山	本件については、産業建設委員会で取り扱うことが適当と考えます。 まずは、発言者から現在の活動内容や、提案されている仕組みの具体的な内容について、さらに詳しくヒアリングを行う必要があると考えます。そのうえで、現在の市の情報発信の取り組みとの関係性や、どのような連携が可能なのかを整理し、今後の対応について検討していくことが適当と考えます。		
遠藤	まだスタートしたてだど考えます。これからブラッシュアップしていく際に行政が関われたら良いのではないかと考えます。		
花田			
戸津川	（対応）浜田の魅力を発信することは大変重要であると思う。仕組みづくりは、行政の担う必要があると思うが、民間のノウハウを十分に活用していくことも大切である。 議会での検討すべき担当委員会は、情報の集約や発信に関することであれば、総務委員会となるが、企業や観光となると産業建設委員会、また学校等での連携も必要となると文教厚生委員会にも関連してくるので、どこが所感委員会かよくわからない。 　どこに重きを置くのがいいのかよくわからなかったので、さらにお話をお聞きし、ご意見を伺い、しっかりと思いを受けて、ご本人の意図するところから、取り組むべき提案であると考える。 場合によっては、自由度を高め、民間を中心とした活動を、行政がしっかりと支援するような仕組みが、なじみやすいのかもしれないと感じた。		
村木	佐々木さんから「伝える大切さ」を学びました。議員としても、この「伝える」ことは、		

	議員活動においても大切なことなので、議員研修としてしっかり時間をとって話を聞いてみてはどうでしょうか。
森谷	
大谷	広報や地域づくりに関する事とすると地域政策を所管する総務委員会か、写真を用いての発信からすると取り組みやすい観光面を重視して観光振興を所管する産業建設委員会でもいいと感じる。
沖田	
足立	【確認事項】 市の広報・観光・商工・教育・地域づくり担当に、既存の市民参加型発信事業と「写真6.0」「浜田だから。」を連携させる余地、担当窓口、施設・広報媒体の利用条件を確認する。 【今後の対応】 まず観光資源等の一テーマで学生・企業・地域と試行する可能性を検討してもらい、参加者数、発信内容、閲覧・反応、次の参加につながった実績を検証する。行政と民間の役割・費用負担、写真の権利・個人情報、他団体への参加機会の公平性を確認し、結果を所管委員会に報告してもらう。
川上	・働きや、為すべき事をステップで示すことは、市民活動をわかり易くすることに資すると思う。 ・まちづくり活動などもステップ化する必要があり要検討。
柳楽	
串﨑	
小川	魅力発信の分野の中で特に観光振興との親和性を強く、市民が気付いていない魅力の再発見と発信につながる取組みと期待する。観光振興課や浜田市観光協会との連携を投げかける。観光面での実績を積み上げることで他の分野へ可能性も高まる。
笹田	市民、学校、企業、地域団体などが連携し、市民自らが地域の魅力を発信する仕組みづくりに関する提案であることから、総務委員会において所管事務調査として取り扱うことが適当。 市の情報発信や市民協働のあり方、既存の活動や人材を生かした連携の仕組みについて調査・研究し、市民が主体となって浜田の魅力を発信できる環境づくりにつなげてはどうか。
岡本	① 提言の取扱い（執行部への対応） 佐々木健治氏の提言は、これまでの活動経験に基づく具体的で理解しやすい内容であった。市民自らが浜田の魅力を発信し、人と活動をつなぐ仕組みづくりは検討すべきと考える。一方、その実現には人と人をつなぐキーマンの存在が重要である。担当職員の異動によって取組が途切れないよう、地域や民間団体との連携も含め、継続できる体制づくりを執行部に求めたい。 ② 発言者への回答 提言を議会及び執行部で共有し、既存の活動を生かした情報発信の仕組みや、継続的に人をつなぐ体制について検討する。その検討状況や今後の対応方針を発言者に丁寧に回答し、提言が具体的な取組につながるよう努めたい。
芦谷	浜田市の魅力を再発見し、新たな可能性を模索し、誇りを持ち夢を描くことは、浜田市の元気づくり、情報の発信につながることがらであり、提案のあった手法などを地域で

	の異業種間、行政の内部、地域の協働のまちづくりなどでの横の展開、循環展開などにつなげることを実践する。
佐々木	内容が少し理解できない点もあり、改めて提案者の話を聞くことも必要かもしれない。 その上で３委員会で協議する
西田清久	雇用を増やす 知ってもらいたい
川神	

所感

【笹田議員】

3件とも、市民一日議会で出された意見をその場限りにせず、まずは所管する常任委員会において調査・研究を行い、その結果を踏まえて、必要に応じて市への提言などにつなげていくことが望ましい。

【岡本議員】

例年に比べ発言者が少なかった要因として、開催時期が考えられる。10月12日は祝日で、学校や地域の行事・大会等と重なっていた。今後は日程や周知方法を検証・工夫し、幅広い世代が参加しやすい開催方法を検討すべきである。

今後の予定

【発言者へのフィードバック】

11月17日（火）の全員協議会で決定した議会としての対応・振分結果を11月20日（金）に発言者に郵送予定。また、その後の予定については以下のとおり。

委員会等からの対応結果及び経過の報告締切	12月15日（火）14時 ※12月9日（水）～11日（金）の3常任委員会で協議
発言者への返答内容確認	12月17日（木）全員協議会

※発言者へは12月下旬に結果を郵送予定。

令和7年度のお金の使い方を議会が厳しくチェック

9月は決算議会と言われるように、前年度の決算を審査し、認定することがメインです。

9月定例会議で令和7年度浜田市一般会計、特別会計、公営企業会計の決算審査を行いました。

決算審査は、予算（前年度の決算審査の内容や附帯決議が生かされ組み立てられた予算案を審議し認めたもの）がどのように執行され、無駄なく有効に政策実現がなされたかを、議員が決算資料を読み込み、質疑・確認・審査し、必要に応じて附帯決議を行います。

図のように、決算審査は、予算審議と連動させ、よりよい政策実現を支えるシステムの役割の一つといえます。このシステムを生かすため、各議員は質問・質疑を重ねることで審査します。今回は、186の質問の通告があり、慎重に審査しました。

決算認定議案を全会一致で認定した後、以下の附帯決議を提出しました。

●令和7年度決算認定に対する附帯決議

⑴事務事業評価の充実　成果指標を設定して自ら評価し、結果を議会・市民へ開示するとともに、事業の改廃を含め次年度以降の予算編成に反映すること。

⑵不用額の減額補正　執行状況を適時に把握し、不用額は適切な時期に減額補正を行うこと。

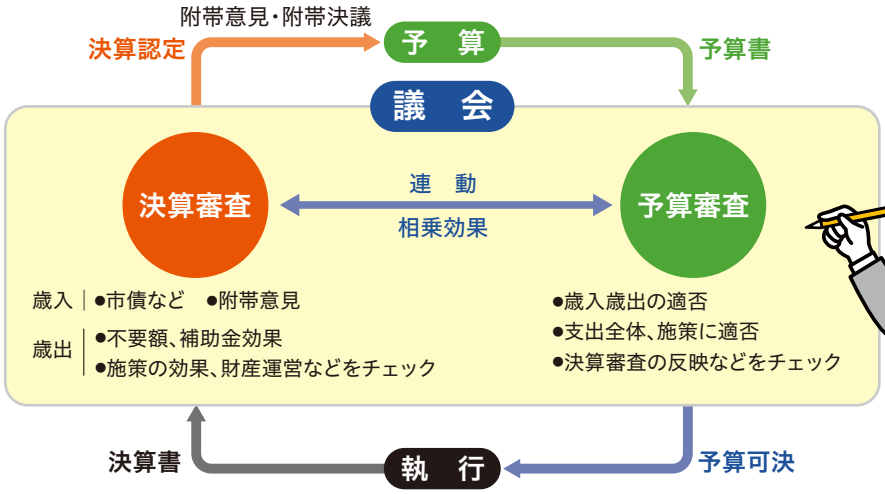
⑶低執行事業の検証　精査基準や運用を見直し、不用額・低執行の要因や見積りの妥当性を検証して予算編成や事業改善に活かすこと。

⑷契約事務の適正化　慣例的処理が見られた検査員の指名手続を速やかに見直し、規則に基づく適正な事務執行に努めること。

⑸議会への報告　取組状況を令和9年度当初予算編成までに議会へ報告すること。



■予算・決算の流れ



☑協働推進事業
協働による更なる地域活動の推進を

問 市民協働活性化支援事業補助金の成果は。

答 29団体に交付し、芸術文化の振興・健康福祉などの幅広い分野の事業に市民が主体的に活用された。合わせて担い手育成にもつながった。

問 先進地視察の内容と成果は。

答 江津市の波子まちづくり活性化協議会と大田市での島根県公民館研究集会に27名の参加があった。まちづくり推進委員会や連合自治会より参加いただいた。
アンケートでは10年先を見据えた地域づくりや新たな気づきなど参考になったとの声があり、今後の活動に活かされることに期待したい。

問 地域支え合い生活支援事業補助金の執行状況は。

答 当初は10団体への活動支援を想定していたが、7団体への執行となった。また、補助金額は1団体30万円の限度額であったが、実績金額が少なかったため、執行率も低調となった。

問 今後に向けた課題は何か。

答 各まちづくり推進委員会への本事業の周知や、利用しやすい条件整備や参考事例の紹介など、事業推進に努めていきたい。

☑次期防災情報システム整備事業
デジタル化により迅速安全な情報伝達が可能に

問 今回の更新による効果は。

答 デジタル化により、以前より正確に迅速に市民へ情報伝達できるようになった。また市民からは聞こえやすくなったとの声を聞いている。

問 今回の整備工事により更新されたものは何か。

答 新たに親局、中継局、子局、個別受信機をデジタル対応に更新した。

問 子局の数に変更があったのか。

答 116局のうち廃止が16局、増設が9局となっている。

問 廃止した16局また増設した9局は、どのような理由か。

答 廃止した理由は、地形的に更新しても聞こえにくい、また地域の戸数の減少により廃止した。廃止した地域には説明を行い、個別受信機での対応に変更した。増設した子局は、これまで津波警戒避難区域、土砂災害警戒避難区域でありながら、未設置の区域や地域の拠点的な避難場所で、設置されていなかった三隅中央公園などに設置した。

☑放課後児童クラブ設置事業
より安心安全な環境を

問 待機児童の解消や受け皿拡充の進捗は。
答 共働き世帯の増加に伴い、計画的な新設・増設や民間委託化を進行中である。並行して支援員の処遇改善や安全対策を求めた。
問 夏休みなどの長期休業期や土曜日のみの利用は可能か。
答 就労形態の多様化に合わせ、各クラブのスペースや人員状況を見ながら、できる限り柔軟な受け入れ枠の調整を行っている。
問 児童が増加する中、ケガ防止や防犯・災害時の安全対策は。
答 避難訓練の徹底や防犯カメラ・電子ロックなどの導入を推進している。民間委託先とも安全マニュアルを共有し、安全な環境を確保している。

☑高齢者補聴器購入費助成事業
高齢者生活支援で健康へ

問 要件緩和後の利用状況や、認知症予防への効果は。
答 認知症やフレイルを予防する目的で実施。所得要件緩和により申請数は堅調である。健康寿命延伸へさらなる周知に努める。
問 両耳に装用したい場合、助成はどうなるか。また再申請は。
答 上限25,000円の範囲内であれば両耳分でも充当可能である。再申請は、購入から5年経過し医師が必要と認めた場合に可能である。
問 助成を受けるための購入時の注意点は。
答 購入前に指定の補聴器相談医による診察と意見書の発行が必要である。事後申請は対象外となるため注意していただきたい。

☑わくわく浜田生活実現支援事業
UIターン者の利用促進に期待

問 執行率が低かった理由は。
答 本事業は東京圏からの浜田市への移住促進事業である。当初、相談案件などの状況から5件を想定したが、結果的に2件の実績となり、低執行率となった。
問 魅力的な事業であるが、条件など見直しが必要ではないか。
答 申請において、国・県に準じた条件で、住民票を移す直前10年間のうち通算5年以上東京都23区内に居住していることや浜田市内の登録された事業所への就職など多岐にわたっており、見直しは困難である。
問 市独自の条件設定はできないのか。
答 国の地方創生事業により、本事業は成り立っており、財源等課題があることから市独自での条件設定は、困難と考えている。

☑スマート窓口整備事業
書かない・待たせない窓口の実現へ

問 導入による市民サービス向上のメリットは。
答 テレビ会議などを活用した「書かない・待たせない窓口」を実現し、支所などでの手続の簡素化や移動負担の軽減を図っている。
問 新導入の「証明書交付サービス」で手続はどう変わるのか。
答 マイナンバーカードなどを使い簡単な画面操作で証明書を発行できる。手書きの申請書が不要になり、待ち時間が大幅に短縮する。
問 デジタル機器の操作が苦手な高齢者などへの対応は。
答 窓口に操作を支援するコンシェルジュ（職員）を配置する。つきっきりでサポートするため、誰でも安心して利用できる。

☑ふるさと寄附推進事業
ふるさと納税約15億円、中国地方で第3位

問 令和７年度の寄附額の現況は。
答 総務省より発表された調査結果によると53,007件の寄附があり総額が約15億3千万円で、全国1,778の自治体の中で212位だった。中国地方では下関市、津山市に続き3位で島根県では1位となった。
問 金額ベースでの地方別割合は。
答 東京を中心に関東から50.7%、大阪を中心に近畿からは20.0%である。
問 特産品開発支援補助金の約136万円は充分であったか。
答 企業型ふるさと納税を原資とし令和5年より3年間で500万円を掛けて冷凍総菜など６アイテム開発した。７年度が最終年であったため金額は少なくなった。今後はクラウドファンディングを活用して商品開発は継続している。
問 補正予算を組んで予算を増額したが、何を取組んだのか。
答 市場動向などを予測することは難しく結果的には新たな取り組みはできなかったが、新たな商品を投入する予定であり、改善しながら更なる寄附増へ取り組みたい。

☑観光協会助成事業
客観的検証と収益性の向上が大事

問 観光推進に向けた数値による事業効果は。
答 公的な観光案内として7,336件の問い合わせに対応。公式ホームページの閲覧数は約161万件で約8万件の増でSNSのフォロワー数も4,487人で前年比1,190人増加している。島根県の観光動態調査では浜田への入込客数は約151万人で約1万人の増加、宿泊者数は約27万人で三隅火電の工事完了に伴い約2万人減少しているが観光を目的とした宿泊者の割合は37%、前年比で4%増加しており一定の効果があった。
問 観光協会独自の収益事業として収入の現状は。
答 販売所やイベントなどでの特産品やグッズの物販が約4,564万円で107%増、観光支援型自動販売機によるものが約155万円で102%増、レンタサイクルの貸出事業で約25万円で5%増。収益向上に向けては他市の先行事例を参考に今後も取組に期待している。

☑「山陰浜田港」水産物ブランド化推進事業
ブランド効果は５年間で12億円と試算

問 水産物ブランド化推進へのPR補助金の内容は。
答 浜田港水産物振興協会が行うPR事業に対し補助しているもので「浜田港四季のお魚」などのPRするグッズの作成、東京築地市場への広報活動、「どんちっちアジ祭り」などのイベント活動の支援、主に小中学生を対象として実施している「浜田港お魚検定」の開催やノドグロ学校給食の実施支援など認知度向上に取り組んだ。
問 事業効果は。
答 平成26年より継続している事業でブランド推進協力企業は138社、四季のお魚認証店は33店となった。ブランド化により魚価も向上し事業者の収益性も高まり２億３千万円～２億８千万円の効果が試算され、ここ５年間では12億円となる。